

納豆への支出

- 家計調査（二人以上の世帯）結果より -

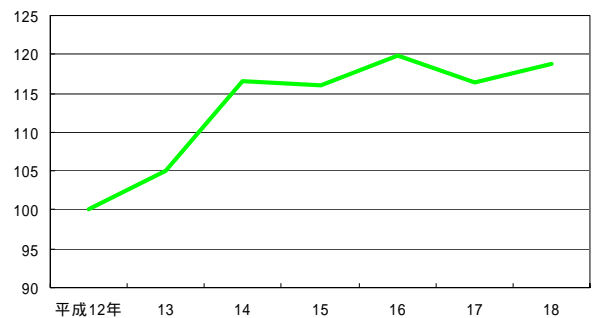
納豆は最近、健康食品として注目されています。また、来月7月10日は『納豆の日』です。そこで、今月は納豆の支出についてみてみましょう。

『納豆の日』は、昭和56年に関西納豆工業協同組合が7・10の語呂合わせで制定し、全国納豆工業協同組合が改めて平成4年に『納豆の日』を制定したことから始まりました。

納豆への支出は増加傾向

まず、納豆の1人当たりの価格変化分を除いた（実質）金額指数の推移を平成12年を100としてみても、18年は119と、12年に比べて約2割増加しています（図1）。

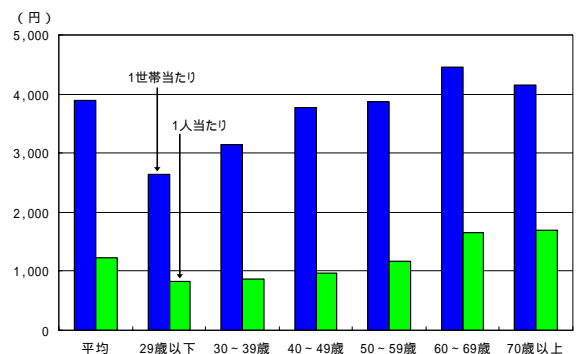
図1 納豆の1人当たり実質金額指数の推移
(平成12年 = 100)



納豆への支出は世帯主の年齢とともに増加

次に、世帯主の年齢階級別に平成18年の1世帯当たりの支出金額をみると、世帯主の年齢が60～69歳の世帯が最も多く、次いで70歳以上の世帯となっています。また、世帯人員1人当たりで見ると、世帯主の年齢が高い世帯ほど多くなっており、70歳以上の世帯では29歳以下の世帯のほぼ2倍となっています（図2）。

図2 世帯主の年齢階級別の納豆の年間支出金額
(平成18年)



テレビ番組の影響を受けた納豆への支出

今年の1月に納豆に関するあるテレビ番組が社会的な問題となりました。そこで、納豆の日別支出金額をみると、この番組の放送があった1月7日は10円でしたが、翌日には19円に跳ね上がり、その後も高い水準で推移しました。しかし、番組の問題がマスコミ報道された後は減少し、2月の平均日別支出金額は12円、3月は11円と昨年の水準（平成18年平均は11円）に戻っています。

このように、家計調査の結果をみると、世帯の消費の日々の変化も的確につかむことができます。（図3）

図3 納豆への日別支出金額
(平成19年1月)

